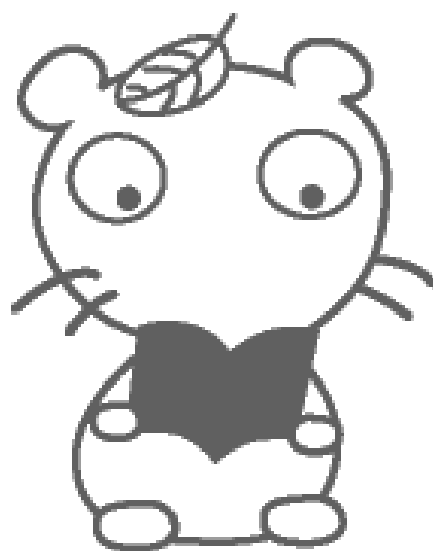


第十九回 小中学生

# ふるさとの詩

入賞作品集



羽生市

# 第十九回 小中学生「ふるさとの詩」 入賞作品集 目次

◎ 小学生の部（五十音順）

太田玉茗賞 お父さんの白い鳥

関根 玲芽 新郷第一小学校 六年

宮澤章二賞 ぼくの妹

増田 充輝 川俣小学校 三年

優秀賞 当たり前っていいな

梶原 莉咲 羽生南小学校 四年

ぼくの学校

田中 恒輝 村君小学校 五年

ゴールキーパー

矢吹 優 羽生南小学校 四年

奨励賞 ぼくを見守る桜の木

江原 清眞 須影小学校 六年

たいせつなお米

萩原 実和子 三田ヶ谷小学校 三年

ひいおばあちゃんとわたし

古谷 彩結 羽生北小学校 三年

だいすきなけしき

松尾 莉子 三田ヶ谷小学校 一年

サイクリング

矢吹 晴 羽生南小学校 四年

その他の良い作品

11

◎ 中学生の部（五十音順）

太田玉茗賞 僕の弟

前田 碧斗 西中学校 三年

12

宮澤章二賞 夏の恒例行事

深井 美緒 西中学校 二年

13

優秀賞 剣の輪 友の輪

岡崎 匠音 南中学校 三年

14

少しずつ

小林 悠那 西中学校 二年

15

僕の一步

関根 琉聖 西中学校 二年

16

奨励賞 私たちの絆

梅田 聖玲音 西中学校 三年

17

おじさんと無人駅

柏瀬 百花 西中学校 一年

18

桑崎の獅子舞

西野 桃音 西中学校 一年

19

眺め

森田 有紀 西中学校 三年

20

選択

横山 遼斗 西中学校 三年

21

その他の良い作品

22

## ◎小学生の部

### 太田玉茗賞

#### お父さんの白い鳥

新郷第一小学校 六年

関根 玲苒

昇降口にある

青空に大きくはばたく白い鳥と

ふわあつと浮かぶ気球の絵

お父さん達の卒業制作

お父さんも僕と同じように

この小学校に六年間通っていた

校歌を最初に教えてくれたのはお父さんだ

小学校六年生のお父さん：

なんだか不思議な感じ

小さく割った色付きタイルを

一つ一つ 思いを込めて

はりつけたのだろう

六年間の楽しかった事

くやしかった事

未来への希望

たくさんの思いを込めて

「気球は旅立ちを表す」

お父さんが教えてくれた

僕がこの小学校にいられるのも

あと少し

とても とても短い時間

もうすぐ お父さんの白い鳥のように

飛び立つ時がやってくる

少しだけ 広い世界へ

だけど大丈夫

一緒に飛んでくれる仲間がいるから

僕達が飛び立った後にも

僕達の思い出は

ここに残り続ける

## 宮澤章二賞

### ぼくの妹

川俣小学校 三年

増田 充輝

ぼくには妹が二人いる。

一学年下の妹と、今年の三月に生まれたばかりの妹だ。

一つ下の妹が生まれた時はぼくは一さいだったので何もおぼえていない。

気がついたら、

いっしょに遊んで、

いっしょにようち園に行つて、

いっしょに小学校に行つて、

いっしょに大きくなった。

生まれたばかりの妹は、まだ何も分からな  
いけれど、大きくなつたら、教えたいこと  
がいっぱいある。

羽生の図書館には、たくさん本があること。

三月ごろになるととね川の土手にきれいな

なの花がたくさん咲くこと。

小学校は、友だちがたくさんいて、楽しいこと。

かけ算九九や、漢字を教えてあげたい。

絵はちよっぴりにが手だから、お姉ちゃんに教えてもらつてね。

ぼくがラグビーでトライしているところも見せてあげたい。

お店やびょういんなどで、あなたに

「かわいいね。」「いい子だね。」と声をかけてくれる人がたくさんいたことも教えたい。

でもぼくが一番教えたいことは、

ぼくたち家族は、あなたが生まれてくることをずっと楽しみにまっていたこと。

「生まれてきてくれて本当に本当にありがとう。」と思つていることだ。

ぼくの妹に生まれてきてくれてありがとう。

ぼくは二人のお兄ちゃん。

これからも、二人をまもり、

二人のお手本になるように、

二人の前を歩いていきたい。

## 優秀賞

### 当たり前前っていいな

羽生南小学校 四年

梶原 莉咲

ぼくはある日突ぜん

今流行りの感せん症にかかった

家族みんなが

家の中でもマスクをすることになって

目でしか表情がわからない

ごはんを食べるのも

ほくだけ別の部屋へ行き

ひとりで食べた

いつもみんなで食べるのが当たり前だから

とてもさみしかった

さみしくてなみだがこぼれた

夜も

いつもは妹と母ちゃんとねていたのに  
ひとりでねることになった  
布団ってこんなに広かったつけ  
部屋ってこんなに暗かったつけ

数日がたち

今までどおりにもどった

みんなでそろってごはんを食べる

妹と母ちゃんとならんでねる

マスクをしないで話をする

みんなの笑顔が

当たり前にあるっていいな

当たり前がこのまま続くといいな

## ぼくの学校

村君小学校 五年

田中 恒輝

ぼくの学校は創立150年を迎えた  
学校の敷地には  
戦争で亡くなった方の碑が立っている  
毎日 ぼくたちを見守ってくれているような  
とても心地がよい  
150年の歴史の重みを感じる  
朝ぼくは天気が良い日には富士山を眺め  
田んぼにはたくさんの鳥  
利根川を眺め  
学校に行く  
学校に着くと  
うさぎたちが出迎えてくれる  
庭にはお花でいっぱいだ  
気持ち良く一日がスタートする  
春には田植え  
夏には利根川をボートで下り  
秋には稲かりに飯盒炊飯  
冬には鮭の放流

どの行事もぼくにとって貴重だ  
先生も児童一人ひとりにとってもあたたかい  
ぼくは学校が大好きだ  
大好きな学校も一年でなくなってしまう  
さみしい  
が、ぼくはあと一年  
最後の卒業生になる  
先人からうけついで  
歴史ある学校  
沢山の友と一緒に先人に負けないぐらい  
成長したい  
あと一年  
友と切磋琢磨し  
心にいっぱい思い出をつくる  
ぼくは決めた  
ぼくはいつまでも忘れない  
この村君小というものを

## ゴールキーパー

羽生南小学校 四年

矢吹 優

ぼくはサッカーをやっている  
ポジションはゴールキーパーだ  
だけど 最初からキーパーをやりたいかったわ  
じゃない

痛いのはいやだった  
シュートを打たれるのもこわかった  
大きな声を出すのだって苦手だった  
フィールドを走りまわりたいかった

でも いつからだろう  
ぼくがゴールを守りたいと思ったんだ

チームメイトに「優がキーパーをしてくれる  
と 安心してフィールドでプレーできる」っ  
て言われた時かな

コーチが「優が守ってくれたおかげで勝てた」  
って言ってくれた時かな

とっでもうれしくて  
とっでも勇気がわいたんだ

痛くたってシュートをとめたい  
点はぜったいにとらせない  
声がかれるくらいの大声でさけぶ  
ゴールはぼくが守るんだ

ぼくのポジションはゴールキーパー  
ぼくは今 チームを勝たせるゴールキーパー  
になりたい



## 奨励賞

### ぼくを見守る桜の木

須影小学校 六年

江原 清真

「今年もきれいに咲いたぞー。」  
春になると 毎年聞こえる  
おじいちゃんの大きくて明るい声

十二年前、ぼくが生まれた年  
家の前のおじいちゃんの畑に  
河津桜とソメイヨシノの  
二本の桜の苗木を  
植えてくれたおじいちゃん

六年前の入学式の朝  
きれいな花びらが  
庭にたくさん散ってきて  
桜色のじゅうたんのようにしきつめて  
ぼくの入学を祝ってくれていた

あんなに小さかった苗木が  
今は ぼくの背の  
五倍以上にも大きくなって  
いつもいつも ぼくを  
じっと見守ってくれている

ぼくが しっぱいして  
しょんぼりしているとき  
二本の桜の木が元気づけてくれる

桜の花が満開に咲くと  
木の下に大きなシートを広げて  
おじいちゃんとぼくの二人で  
おにぎりを食べたり  
ジュースを飲んだりした

もうすぐ ぼくは小学校を卒業する  
ずっと ずっとぼくを見守って  
くれている 二本の桜の木  
これからも たくさんの思い出を  
この桜の木といっしょに  
つくっていこう

## たいせつなお米

三田ヶ谷小学校 三年

萩原 実和子

わたしはおじいちゃんのお米が大すき  
ふっくらもちもち とつてもあまい  
このお米ができるまで  
とても時間がかかったよ

ふわふわの土のふとんでねむったタネ  
だいじに育ててなえになる

いよいよ田うえがはじまるよ

田んぼに水が入ったとたん  
どこから来たの カエルの合しよう  
夜に見ると海のように

カモの親子のピクニック

なえがぐんぐん のびてきた

おたまじゃくし アメンボ ゲンゴロウ

おじいちゃんのお米には  
いろいろなお客様がやってくる

緑のじゅうたん

風でゆれる さらさらゆれる

こがね色のじゅうたん

もうすぐしゅうかく

おじぎをしたらいねかりの合図

こうべをたれるというらしい

いねかりしているおじいちゃん

みんなのためにがんばっている

できたてのお米

つやつやしていてうつくしい

ずっしり重たいお米

おいしいお米をありがとう

わたしはおじいちゃんのお米が大すき

今日もみんなでいただきます

# ひいおばあちゃんとわたし

羽生北小学校 三年

古谷 彩結

チンチンチーン おりんを鳴らす  
ひいおばあちゃんへごはんの合図  
出来たての温かいお米  
ゆでたてのめん  
毎日ひいおばあちゃんへ  
ごはんをあげるのは、わたしの仕事  
ひいおばあちゃんは天国にいる  
毎日空からわたしたちを  
見守ってくれている  
日ざしのあついま夏の日  
家ぞくみんなでおはかまいり  
赤くもえる線こう  
あつくなつたおはかに水をまく  
わたしはあせだくだ  
目に見えないけど  
わたしのかたに  
ひいおばあちゃんがのっている  
なんだかわたしのかたが

いつもより重い気がする  
わたしのかたにのって  
ひいおばあちゃんは  
みんなのいる家に帰ってくる  
目には見えないけれど、  
ひいおばあちゃんは  
わらっている  
短い時間だけど  
みんなと楽しい時間をすごす  
わたしの大好きな時間  
楽しい時間はあつというまにすぎる  
ナスの牛にのって  
ゆっくりけむりの道をすすんで行く  
ま夏の青空を見上げて  
わたしは見送る  
けむりがきえるまで見送る  
心の中でさけぶ  
「またむかえに行くよ」  
チンチンチーン おりんを鳴らして  
今日もごはんの合図をする

# だいすきなけしき

三田ヶ谷小学校 一年

松尾 莉子

わたしはこうえんがすき

いちばんは、おおきなローラーすべりだい

いちに、いちに、かいだんをのぼると、

みえてくるひろいそら

みどりのしばふ

あかいひこうき

つりばし

とらんぼりん

ちいさいすべりだい

おかあさんにおおきくてをふると

おかあさんもしたでてをふつてくれる

ついにわたしのじゅんばん

ローラーがまわって

どんだんどんスピードでるよ

きゅーつとさけびながらしたにとうちやく

「そろそろおうちかえるよ。」

おかあさんがいうけど

「もういっかいだけ。」

といてかいたんのぼる  
おおきなくも、おれんじのそら

## サイクリング

羽生南小学校 四年

矢吹 晴

からからから

車輪がまわる音を聞きながら

力いっぱいペダルをこぐ赤い顔のぼく

母を先頭にしてサイクリングへ出発だ

そよそよそよ

さわやかな風が吹く

緑ゆたかな田んぼ道を進む

ぼくが先頭になれるこの道が大好きだ

がたがたがた

おしりにしん動を感じながら

黄色い菜の花がきれいな土手道をのぼる

自転車をおりずにのぼりきれようになつた

のは三年生の時だ

たらたらたら

おでこに流れるあせをふいて

利根川のゆうゆうとした流れを横目に  
自転車をおりる

青い空を見上げて飲む麦茶は  
いつもよりおいしく感じるんだ

きらきらきら

目の前に広がるそう大な景色は

ぼくの心をにじ色にときめかせてくれる

次はペダルをこいでどこまで行こうかな

ぼくの大好きなまち羽生

## その他の良い作品

作品は羽生市ホームページでご覧いただけます。

題	学校名・学年	氏名
植物の観察	須影小学校 五年	泉 美結
どしゃぶり	三田ヶ谷小学校 三年	木村 風雅
風をきって走る	村君小学校 三年	佐久間 翔子
ぼくと小犬	新郷第一小学校 四年	多田 伊織
もどってきた熱い夏	羽生南小学校 六年	棚橋 勇太
おじいちゃんのこだわり	新郷第一小学校 六年	平塚 大斗
あいろいろの町	新郷第二小学校 四年	李 品誼
秩父鉄道	新郷第一小学校 五年	吉江 大和
つめたいけれどあたたかい	井泉小学校 二年	よし田 ともか

## ◎中学生の部

### 太田玉茗賞

#### 僕の弟

西中学校 三年

前田 碧斗

二つ下の弟

四月に僕のいる中学校に入学してきた

入学式

少し緊張ぎみに家を出た弟

帰って来た時には満面の笑み

友達最高、先生最高、一年四組最高

弟はキラキラしていた

サッカー部に入ると決めた弟

僕は心配だった

サッカーの経験もない

五年生の時の腰の怪我以来走るのも遅い

本当に大丈夫か

サッカー部の半端ない運動量

弟よ、知らないだろう

そんな心配もよそに入部届を出した弟

僕の心配とは裏腹に

部活を終えて帰宅する弟は輝いている

弟が帰宅すれば真っ先にサッカーの話題

弟のサッカー愛が伝わってくる

もちろん

「疲れた」

と帰って来る日もある

その時こそ弟はよい顔をしている

達成感で満ちあふれた表情が最高だ

まだコートに入れない弟

他の部員とのレベルの差に悩むこともある

だからこそ自主練習は欠かさない

そんな弟の姿を知っているからこそ

僕は弟の力になり支えたと決めた

弟が上手くなり

僕を必要としなくなるまで

目に見えて上達している弟

間もなくその日が来るだろう

## 宮澤章二賞

### 夏の恒例行事

西中学校 二年

深井 美緒

夏の我が家の恒例行事

草取り競争がやってきた

家の周りの草を、誰が一番多くとることができるか競争だ

太陽の下、蚊取り線香を囲み

よーい、ドン

汗がとまらない父

眠そうだけど、手は止めない母

黙々と草を刈る私

「僕が一番だ」

毎回言う弟

緑いっぱいだった庭が茶色に変わっていく

アラームが鳴る、終了

今年もがんばったなあ

そして、お待ちかねのご褒美タイム

お手製のかき氷だ

ガリガリガリガリ

レモンシロップをかけて食べる

ひんやり冷たい

きれいになった庭を見ながら食べるかき氷

は格別だ

すつきりして、心まで晴れやかな気持ちになる

来年は、流しそうめんやりたいな



# 優秀賞

## 剣の輪 友の輪

南中学校 三年

岡崎 匠音

僕は剣道が大好きだ

多くの人と剣を交えてきた

時に喜びを、時に悔しさを味わった

どうしても勝てない相手がいる

勝ちたい

勝つために稽古に力が入る

勝ちたい思いが辛い稽古の原動力となる

けれど同じ目標を持つ同志

切磋琢磨し互いに力をつけていく

いつしか声をかけ合い鼓舞し合う仲になる

良きライバル良き友となる

そしてまた強敵が現れる

また勝つために稽古に打ち込む

剣道のが輪になって広がり

友達の輪も無限に広がる

その輪は縦にも横にも広がる

恩師に出会え

尊敬する先輩にも出会えた

最高の友とも

輪を広げるために今日も明日も剣を振る

大きな輪にするために

強固な輪にするために

## 少しずつ

西中学校 二年

小林 悠那

「キュ タタン タン」

体育館はたくさんさんの音がする

「キュキュ」 「タン タン」

床と靴が擦れる音

床にボールを打ちつける音

「ナイッサー」 「ナイスファイト」

相手を応援し、励ますかけ声

先輩が引退し、少し寂しさが残る体育館

「タン」 「タン」 「タン」 「タン」

何回もボールが落ちる音

流れる汗 重くなっていく足

「タン」 「タン」 「タン」

少しずつミスが減っていく

打ちやすいトス

味方を安心させるレシーブ

力強くて、格好良いスパイク・サーブ

どうしたら できるだろうか

考えて やってみる

でもうまくいかない

教えてもらったことを思い出す

ポイントを意識してボールに触れる

成功 失敗 何度もくり返す

そうしているうち 少しずつ 少しずつ

上達していく

もう少しで大会

できるだろうか

先輩のような

格好良いバレーが

私も強くて頼れる選手になれるだろうか

「キュキュ」 「タン タタン」 「キュ」

今日も たくさんさんの音が

体育館に 響く

## 僕の一步

西中学校 二年

関根 琉聖

僕は卓球が好き

とても好き

出会いは 中学校の部活

それまでは

ボールにふれた事もなかった

友達と

無心でボールを打ち合っている時の

リズムが好き

けれど 試合では なかなか勝てない

うでの位置を意識してみたり

ラケットのふり方を考えてみたり：

僕の成長は ゆっくりだから

一度にたくさんは伸びない

自分のペースでいいんだ

進む早さは 人それぞれ

一歩ずつでも

少しずつ 間違はなく進んでいるから

次にふみ出す一歩を

全力で楽しむんだ

三年生の夏 部活を引退する時

後ろをふり返ったら

進んできた道が

長く 長く 伸びているはず

一歩ずつ

ふみしめた

足あとをつけて

## 奨励賞

### 私たちの絆

西中学校 三年

梅田 聖玲音

私には特別な親友がいる

アルトサククスだ

出会いは中学一年生の春だった

吹奏楽部に入部した瞬間、私はアルトサククスから目が離せなくなった

その時、私はこの子と一緒にこれから練習をしていきたいと思った

待ちに待った担当楽器発表の日無事にアルトサククス担当になれた

心の底から嬉しかった

最初はメロディーだけかと思っていた

一緒に練習を重ねていくうちにリズムやハーモニー、マーチやポップスなど

今まで私にたくさん顔を見せてくれた

初めてのソロを任された時はとても緊張し、練習も思い通りにいかないことが多かったしかし、たくさん時間を共有してきたから私たちの間には深い絆が生まれた

本番は心臓が飛び出るくらい緊張したでも、私たちには今まで練習してきた時間と絆があった

だから楽しんでステージに立って私たちの音をみんなに届けることができた

あなたと出会えて本当に良かった

私はあなたが奏でる音が大好きだよ

これからもよろしくね

# おじさんと無人駅

西中学校 一年

柏瀬 百花

ピッ ピッ

見なれた通学路に

聞きなれない音

感じなれた静けさなのに

どことなく違和感

いない いない

おじさんがいない

心がポカポカする笑顔も

妙に甘く感じたアメ玉も

ない ない

違和感の正体

駅に見なれない機械があった

一年前からだ

同じ駅なのに温かくない

同じアメ玉なのに味がちがう

古びた駅の姿が

どことなくさみしい

感じなれない静けさが漂っている

無人駅だ

## 桑崎の獅子舞

西中学校 一年

西野 桃音

私の家の近くに桑崎三神社がある

そこで年に二回獅子舞を奉納している

桑崎に伝わる獅子舞は、利根川が決壊した

ときに、獅子頭が流れ着いたのがきっかけ

といわれている

私が初めて近くで目にした獅子舞は、迫力

があり、少し怖く感じた

お父さんの後ろにかくれて、近くに來ない

でと祈った記憶がある

小学生の頃、子供会で棒術を保存会の方に

教えてもらっていた

棒術の奉納を終えると、三頭の獅子が腰太

こ打ちながら舞いが始まる

昔、怖いと思っていた獅子も今では勇まし

くかっこよく思える

桑崎の獅子舞は、平成十七年、三月に無形

民俗文化財と指定された

もつともつとたくさんの人に桑崎の獅子舞

を伝え、感動を与えたいと思うようになった

伝統として、地域に残る文化を私達世代に

残してくれている

私もほこりに思いこれから大切に守り伝え

ていきたいと思う

何代も何代も受けついでこそ、この価値が

あるのだと思う

私は、このような郷土芸能がすぐ近くにあ

ることを幸せに思う

## 眺め

西中学校 三年

森田 有紀

終わった

楽器を下ろし礼をした瞬間

心の中でつぶやいた

入部した時 希望と期待に満ちあふれて

先輩たちに追いつきたいと

毎日 懸命に練習した

初めてのコンクール

オーデションで友と競い合う

絶対に出場すると心に誓い

練習に励んだ

本番 手が震えた

そのうち学校生活にも慣れ

練習も まあいいかが増えてきた

先輩が引退して私たちが最高学年

後輩の見本になれるように  
練習に力が入った

行事やテストで楽器に

触れない 吹けない時期があり

無性に練習がやりたくなった

そして最後のコンクール

こうして本番に立っている

悔いのない演奏ができただろうか

友の顔を見るとみんな笑顔だった

走馬灯のように

今までの景色も思いも 駆け巡る

今日 部活を引退する

自分の夢の実現のため

たくさんの学びと思い出を胸に

これから 私は 受験に挑む

## 選択

西中学校 三年

横山 遼斗

たった一度しかできない選択を大切に  
自分の人生を歩んでいきたい

「受験」耳をふさぎたくなる言葉  
中学校入学後「まだ大丈夫」と考えないよ  
うにしていた

気づけばあと数ヶ月、もう逃げられない  
僕達は今、人生の分岐点に立っている  
この選択でこれから歩む道、出会う人、た  
どり着くゴール、全てが変わってくる  
今まで大きな選択をしたことがない優柔不  
断な僕に

受験という言葉が重くのしかかる  
選んだ道が平坦で楽な道か、険しい道か  
はたまた落とし穴や行き止まりのある道か  
自分で決めた道を歩いていかなければなら  
ない

ふりだしには戻れない  
もし悪い選択で後悔することになったとし  
ても、足を引きずらず努力できればその道  
に正解を見出せると思う



## その他の良い作品

作品は羽生市ホームページでご覧いただけます。

題	学校名・学年	氏名
向日葵	南中学校 一年	青木 美音
挨拶の愛	南中学校 二年	小俣 明日香
先輩の背中	西中学校 二年	片貝 篤志
たくさんの優しさとあたたかさ	南中学校 一年	神山 夕海
真夏の学校	西中学校 三年	金原 奈々
受験生	西中学校 三年	小林 由唯
大切な一日	西中学校 一年	坂本 心愛
仲間	西中学校 一年	須永 陽太
昨日の自分に勝つために	南中学校 二年	関根 伶
高校入試	西中学校 三年	竹尾 悠汰
給食と私	東中学校 二年	西野 嘉人
無個性	南中学校 二年	橋本 その
蝉	西中学校 一年	山口 きく

## 第十九回 小中学生「ふるさとの詩」募集要項

利根川の流に生まれ、四季おりおりの美しい自然に恵まれた羽生市は、日本の近代詩史に名をとどめた、太田玉茗を生んだまちであり、田山花袋の小説『田舎教師』のふるさとのまちです。

また、羽生市出身の宮澤章二は、市内の多くの校歌を作詞した詩人です。

この二人を郷土の偉人として尊敬し、顕彰するためにも、みなさんの「ふるさと」を一篇の詩にして、応募してみませんか。

### 1 募集作品

- ・「ふるさと」を題材とした作品、または自由題  
(家族、友だち、自然、伝統行事など、心に感じたことを書いてください。)
- ・自作で未発表の作品（過去に書いた作品でも構いません。)
- ・応募作品数は一人1篇

### 2 応募方法

- ・400字詰め原稿用紙B4縦書、表題・氏名・本文で2枚以内の作品。
- ・各学校で取りまとめ、名簿を添付のうえ提出をお願いします。

### 3 応募資格

- ・市内の小学生・中学生

### 4 応募締切

- ・令和5年9月6日（水）

### 5 発表

- ・令和5年11月下旬に通知

### 6 賞

- ・小学生の部・中学生の部  
各部門とも、太田玉茗賞 1篇、宮澤章二賞 1篇、優秀賞 3篇、  
奨励賞 5篇
- ・賞状と盾を贈呈します。

### 7 その他

- ・応募作品の著作権は主催者に帰属し、作品は返却しません。
- ・入賞者の作品・氏名・学校名・学年については、広報及びホームページに掲載するほか、報道機関等に公表します。
- ・ホームページには、過去の作品も掲載されておりますので、参考としてご覧ください。

### 8 主催 羽生市

### 9 応募・問合せ先

羽生市役所秘書広報課 〒348-8601 羽生市東 6-15 Tel.561-1121（内線 204）



●第十九回 小中学生「ふるさとの詩」募集結果

小学生の部	216篇
中学生の部	188篇
応募総数	404篇

●選考委員（五十音順）

塩田 禎子  
根岸 光子  
萩原 澄江  
松村 洋彦  
水野 栄子

発行者 羽生市総務部秘書広報課

発行日 令和6年1月18日

